

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

# 日台稲門会 会報 第18号



発行所：日台稲門会事務局  
東京都新宿区新宿 6-25-15(齋藤方)  
TEL 090 (3041) 9752  
編集委員会  
発行人：萩原 伸一  
編集責任者：齋藤 晃

## 新会長 就任挨拶 会長就任にあたり

会長 萩原 伸一



このたび会長に就任いたしました萩原伸一です。岩永前会長が六年間にわたってお努め頂いた会長職を引き継ぐことになり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。日本と台湾との交流を深めることを目指した日台稲門会の活動は、台湾からの留学生や台湾をもっと理解しようとする日本の学生が多く参加することにより、活動範囲は大きく広がってきています。会をリードされてきた岩永前会長の功績に敬意を表するとともに、御礼申し上げます。

私は、一九七三年早稲田大学法学部を卒業し、(株)高島屋に入社しました。百貨店という消費者と直接向き合う最も川下産業での四〇年間は、一人ひとりのお客様の声、ニーズに耳を傾けることの重要性に気が付かされることの連続でした。

今後もこの経験を活かし、会員・会友を始め関係者の方々の多くの声をお聞きしながら会の運営を行っていきたくと考えております。

高島屋時代は、人事労務関係の仕事が長かったのですが、シンガポールでの七年間の初海外勤務を経て二〇〇一年から四年間台北に駐在いたしました。日本人の多数がそうであるように赴任前は台湾に関する知識はさほど持ち合わせておりませんでした。駐在期間、台湾の方々と

の公私にわたる交流の中で、同じアジア人としてだけでない親しみと共感を覚えました。玉山登山、島めぐりなど地方も随分巡りましたが、長閑な風景や素朴な人々との触れ合いは心に残る思い出です。

仕事の面では、様々な難題に直面し、台湾に貢献するどころか関係各所にご迷惑も掛けたにも拘らず、提携先現地企業の方々やお取引先の方々のご理解、とりわけ現地従業員の骨身を惜しまない協力を得ることができました。その時の感謝の念を何らかの形で恩返しができたらの思いから、帰国後に日台稲門会に入会しました。

幾多の歴史の波を経てきた台湾、そして日本との深い関わりのある台湾、日本の南端からわずか百如余りしか離れてい

ない隣人を日本人はもつと知り、親しみを持って欲しいと思います。そして、台湾の方々には、より日本を理解し好きになってもらいたいと思います。台湾からの留学生も早稲田大学だけで四百人ほど在籍しています。留学生の皆さんが台湾に戻るときは、学問だけでなく日本での好い思い出をたくさん持って帰って欲しいと思います。一人でも多くの台湾ファン、日本ファンが生まれてくれればと切に願っております。

日台稲門会は、台湾にゆかりがあり、台湾が好きの方々の集まりです。この想いを持った会員・会友の輪を広げていくことは、日台交流と友好関係が進展していくことに繋がります。一九九七年にこの会が正式発足してから十八年が経過しました。諸先輩方が築いて頂いたこの会を更に一歩進めることができようように微力ではありますが頑張りたいと思っております。

私は、台湾駐在期間も短く、岩永前会長のようなキャリアに基づくと台湾での幅広い人脈や、強い絆は持っておりません。会員・会友の皆様をはじめ関連各署の方々のご協力が不可欠です。皆様と一緒に日台稲門会を更に発展させていきたいと念じておりますので、何とぞ宜しくお願ひ申し上げます。

**日台稲門会 幹事長  
就任にあたって**  
幹事長 三村 達



日台稲門会との出会いは、台湾から帰国し台湾駐在経験者達の集まりの一つであるILT会（I・L・O・V・E・T・A・I・W・A・N・会）に参加した時に岩永日台稲門会会長にお会いしたのがきっかけでした。岩永会長とは、同じ時期に台湾に駐在していたこともあり、岩永会長からのお誘いすぐに日台稲門会の会員になりました。その後、日台稲門会の幹事として会の運営のお手伝いをしてきましたが、この度、微力ではありますが、幹事長の大役をお引き受けすることになりました。日台稲門会は、一九三七年に早稲田大学文学部を卒業した台湾生まれの台湾育ちの寺田勉氏が「関東台湾稲門会」を結成したのが草創です。日台稲門会は、それ

からの78年の長きにわたり、会員・会友の皆様と台湾との絆づくりを主としながら、会員相互の親睦を図り、早稲田大学の発展に協力するとともに、台湾との交流を深めることに力を注いできました。現在、約七〇名の会員、十四名の会友がおり、毎年、春季講演会・懇親会、総会・記念講演会・交流の集い、秋季講演会・懇親会に加え、台湾からの留学生、台湾を愛する日本の学生たちとの交流会を開催し、数多くの会員・会友の方々に参加していただいております。今後、会員・会友の皆様にとつて、また、台湾の留学生たちにとつて今まで以上に意義のある行事を開催し台湾と日本の交流に寄与できるよう会長、事務局長、幹事たちと共に頑張っていきたいと考えております。

これからも、日台稲門会の趣旨をご理解いただき、ご指導・鞭撻をいただきますようお願いいたします。また、よう何卒よろしく願っています。まずは、幹事長就任に当たり一言「挨拶申し上げます。」

**新幹事 就任挨拶と**

**明石元二郎顕彰会の紹介**

幹事 小川 英郎

新幹事の小川英郎（ひでお）です。七十六年理工・金属卒、セールスエン

ジニアを夢見て今は無き興銀のリース会社に入社。建機・IT・新規事業等に携わりました。最も想い出深いのは仙台支店長時代、仙台稲門会の方々にお世話になり、ほぼ毎日国分町で深夜営業！？をさせて頂いた事です。（笑）



五〇歳の時今の事務局の代表と出会い転職。

研修の講師の他中国語の検定事務局長をしております。台湾との関係は、特に、第七代台湾総督明石元二郎様の顕彰会事務局に関わってからです。大先輩の方々の前では若輩者？ですが、今後とも宜しくお願い致します。

**《明石元二郎顕彰会の紹介》**

二〇一一年 東日本大震災の前月二月に準備会を開催。同年一〇月渋谷東急ホテルで明石元二郎墓地建設に多大な貢献

をした楊劉秀華さんをはじめ、池田維元台湾大使、岡崎久彦氏をお招きし五人で発足した。その後二〇一二年、震災見舞い御礼感謝音楽祭を台北市で開催。（一千名参加）会員約百人に会報を発行しています。友好団体としては、台湾の高座会、日本高座会、一般財団法人台湾協会、台湾国連共進会があります。



明石元紹氏



楊劉秀華さん

### 会長 退任挨拶 会長退任にあたって

名誉会長 岩永 康久

この総会で退任予定であり、在任三期六年を振り返り、退任の挨拶とさせていただきます。日台稲門会は現在約百名の会員・会友の会として小振りではありますが、日台の相互理解・友好という明確な目的意識を持って活動する、稲門会の中でも一味違った特徴ある組織になっています。草の根的な活動ではありませんが、民間組織として日台の友好に貢献しているのは台湾駐日代表処、日本交流協会にも高く評価いただいている所です。総会、新春講演会、秋期講演会、その後の懇親会などにも要人が参加いただいています。昨年の総会では沈斯淳代表(大使)に講演をいただき、その後の懇親会でも会員・会友と親しく盃を重ねられ、日台の学生達とも懇談いただくなど大いに盛り上がり 있었습니다。かの辛口の金美齡様(国民党現政権に批判的)も参加いただき、当初は沈代表との会話にも刺々しさがありました。会の終わりの頃には打ち解けて談笑されている姿が印象的でした。春の叙勲においても、最近では日台の交流に多大な貢献をされた重鎮の叙勲が目立ってきており、二〇一二年春の辜濂松氏に引き続き、今年には許水徳氏が旭日大綬章、江丙坤氏が旭日重光章、劉枝

萬氏が旭日小綬章を叙勲されました。お三方共に対日交流に注力された方であり、かかる方の叙勲は我々台湾に関係する者にとり、我が事の如く嬉しく感じるものです。残念ながら辜濂松先生は叙勲を受けたその年末に亡くなられました。台湾財界トップとして長年尊敬を集め、政治的に孤立しがちな台湾で、民間外交官的立場「公の精神」で日台の交流に心血を注がれたご努力に感謝し、昨年墓前にお参りしました。奥様よりも辜濂松先生の「日台に対する熱き想い」をお聞きし、今更ながらに頭が下がる思いでした。

日本人として、尊敬する早稲田の先輩、萩谷博氏にも触れたいと思います。萩谷氏は台湾で起業し、成功され七十二歳まで経営に当たられました。その後、育てた企業を米国企業に売却し、その淨財の一部(一億円)の活用方法を相談受けました。萩谷氏の経歴・日台に対する熱き想いに応えるのは「母校早稲田に貢献し、日台交流に役立てる」ことだと考え、梅森前台湾研究所長(現政治経済学術院副院長)始め母校関係者の協力を得て素晴らしい奨学金制度(ハワードハギヤ奨学金)が設立されました。その結果、今年、台湾からの早稲田留学希望者が急増し、応募者のレベルも著しく高くなった由です。萩谷先輩は昨年癌を発症し、帰国・療養中でしたが、残念ながら今総会から半月前の六月五日に他界されました。日

台双方の萩谷奨学生との面談を期待していましたが、痛恨の極みです。

最後になりますが、日台稲門会の基礎は会員・会友、日台の学生達、加えてこの活動にご協力いただいている方々のお蔭であります。これまでのご厚意に対するお礼と、今後の新体制に対するより一層のご支援をお願いしつつ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



三三会講演会で。右から三三会会長・辜濂松氏、筆者、経建会主委・江丙坤氏 (2000年10月19日 自由時報、肩書は当時)

『訪日行 三三會暖身 三三會昨日召開十月份例會、邀請四家日本大型商社駐台代表在會中演講、為三三會十一月訪日行程暖身。圖為新任三三會會長辜濂松(右)、台灣任友商事公司董事長岩永康久(中)、與前經建會主委江丙坤(左)正在討論訪日細節。(新聞刊第十八頁)(記者方賓照攝)』

### 幹事長を卒業して

顧問 高橋 徹

二〇一二年四月、小野間幹事長より推薦を受け、岩永幹事長の承認を得て半ば強引に幹事長を仰せつかりました。

小野間幹事長はメールのお返答が早いとの理由で、私を推薦したものと記憶しております。自分が幹事長になり日台稲門会を運営して行くに当たり、メール発信した機会は数多くありますが、円滑な運営を図る意味から、幹事長が、即座に判断しメール返信することが肝心なことであり、幹事各位からの迅速なる反応も求められました。多少の幹事への入れ替わりはありましたが、この三年余、幹事の皆様には迅速なる回答を頂き、この間、円滑な運営が出来たことを感謝しております。更に、幹事の皆様には幹事会での夫々の専門性を元に発言を頂き、講演会・懇親会等のイベントでは積極的にご協力頂いたこと、私が無事、職務を全うできたことの原動力となりました。重ねて御礼申し上げます。

岩永会長は、私からご説明するまでもなく、台湾に関する知識・人脈は当会で並ぶ方がないものをお持ちであり、国際経済に対しても中日経済文化代表処の沈斯淳大使とTPPやAIIIBで論戦をされるなど深い造詣をお持ちです。ちょうど二年前、会長再選に際し、早稲田大学

での授業・台湾企業の社外取締役・日台関係の団体の委員等、色々な役職を兼務されることを理由に、私に大幅な権限移譲をされました。元々、岩永会長と私は、性格は異なっていると思いますが、同じ財閥系商社出身で同じような考え方をしており、この二年間は、ほとんど同じ結論を出したと思います。そこには岩永会長の幹事長に任せたのであるから、幹事長判断を尊重する気持ちの後押しをして頂けたものと感謝しております。

今回、岩永会長が退かれるに当たり、幹事の皆さんからどうしても続けて欲しいとの強い要請があったことは事実です。岩永会長も三期六年会長を務められ、これ以上続けることは、弊害が出るかもしれないと判断され、若い方々にお任せし、過去から離れた新しい日台稲門会を作り上げて欲しいとの気持ちが進められております。私としても全く同意見で、これまで岩永会長と一緒に歩んできた者も、一緒に退任すべしと判断しました。

新体制は、萩原新会長、三村新幹事長、齋藤事務局長を中心にこれまでの良いところは踏襲して頂ければ良いと思いますが、過去がこうであったからこうあるべきとの考え方から離れ、全く新しい発想で運営頂くことを希望します。現状維持即落後、これは新光グループの創設者呉火獅氏の標語です。ビジネスの世界でも同じことを続けるだけでは、衰退します。常



留学生たちと談笑する筆者



に新しいことを模索して永遠に輝き続けて下さい。  
新体制は今後提案をされることと思いますが、会員・会友の皆様には、どうぞご理解・ご支援のほど宜しく申し上げます。最後に、私事ではありますが、今後二年は顧問として、留学生との交流・三台会との交流等のイベントには参加しますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

台湾関係者 叙勲の紹介

春の叙勲、台湾から3人受章

日本政府による4月29日付発表の2015年春の叙勲受章者の外国人叙勲のうち、台湾からは次の3名の方がたが受章されました。

- 許 水徳さん(83) 元亜東関係協会会長、台湾日本研究学会理事長 旭日大綬章
- 江 丙坤さん(82) 台日商務交流協進会理事長、台日経済貿易発展基金会董事長、中国信託金融HD最高顧問、東京スター銀行取締役会長 旭日重光章
- 劉 枝萬さん(91) 元中央研究院民族学研究所研究員 旭日小綬章

秋の叙勲、台湾から3人受章

日本政府による11月3日付発表の2014年秋の叙勲受章者の外国人叙勲のうち、台湾からは次の3名の方がたが受章されました。

- 陳 伯陶さん(83) 元 淡江大学日本語学科専任教授 旭日中綬章
- 鄭 清茂さん(81) 元 台湾大学日本語文学科教授 旭日中綬章
- 林 文月さん(81) 元 台湾大学中国文学部教授、散文作家、翻訳家 旭日中綬章



萩原次期会長と江丙坤氏

江丙坤さんの叙勲に対する感謝の宴が五月二十九日、帝国ホテルで開催されました。当会では岩永会長が招待されましたが、当日は生憎台湾出張のため、代って次期会長候補の萩原伸一幹事が出席し、お祝いを申し上げます。  
『江丙坤さんの政財界での幅広い人脈から森喜朗元首相、平沼赳夫日華議員連盟懇談会会長、沈台北駐日経済文化代表処代表、大橋交流協会会長など三百名に上る招待者がお祝いに駆け付け、パーティは盛大に行われました。江丙坤さんは挨拶の中で、外交官時代には辛い時代もあったが、日台の経済交流を更に深める活動をこれからも続けていきたいとの強い想いが語られました。これからの更なる御活躍を心より祈念いたします。』(萩原)

江丙坤さん 叙勲の宴

会員便り  
第二の故郷・台湾

池澤 辰夫



私にとっては、台湾は、「第二の故郷」です。

なぜなら、私の「生まれ育ち」を紹介しますと、昭和三年(一九二八年)台湾台北市で生まれ、台北市建成小学校、台北一中(現・建国中)卒、台南工業専門学校(現・成功大学)入学(昭和二十年)と同時に、戦局が逼迫し、米軍による沖縄戦が始まる直前に、十七才で学徒兵として召集。敗戦と同時に八月、現地除隊。翌年の昭和二十一年四月、父親不在のまま、上は、七十才の祖父母から、母(三十七才)、私(十七才)、弟(十三才)、下は、五才の妹まで六人で、最終的に、福岡県柳川市に、台湾から引き揚げました。

また、私の祖父母は、領台初期の明治三十年前後に、台湾に渡りましたから、

私の父も台湾生まれ(明治三十一年)です。祖父母は、五十年近く、台湾で、石鹸製造の中小企業を営み、平和に楽しく過ごしていましたが、敗戦後、七十才台になっていただけに、すべての財産を失い、リュックサックひとつで「日本への引き揚げ」は、私ら若い者にくらべ、精神的に、大変、辛いものだったようです。

また、それ以上に、私ら家族の引き揚げの最大の問題点は、祖父母の五十年間という外地生活のために、引き揚げ先の親戚が不明なことでした。そのために、流浪の民のように、数か月、転々として、最終的に柳川市に落ち着いたような次第です。それも、瀬戸物屋さんの古びた狭い倉庫で、屋根はあっても、天井板がなく、すき間風の通りは良いが、電気もつかず、貨物車のような住み家で一年を過ごしました。常夏の島、台湾の暖かさに慣れた祖父母にとって、「寒い日本」の冬は、厳しかったようです。

一方、私の父は、戦時中、軍属(民間人)として、当時の仏印(現在のベトナム)に五年間ほど滞在して軍需物資の収集をしていましたので、終戦後は、連絡も取れず、別途、二十一年七月に引き揚げて来ました。私ら家族が、どこに引き揚げているか、父に分かって貰うため、その当時の引き揚げ港の「大竹港」など、数か所の港に連絡をして、柳川市にいることを伝えて貰ったり、その当時のNHKのラジオ放送の「尋ね人」で、放送して貰ったりした甲斐がありました。

このような外地からの引き揚げ者の状況について、満州などの引き揚げ者は、終戦まぎわに参戦したソ連軍、匪賊、民衆などの暴行を受け、まさに命からがら「地獄」から逃げるように引き揚げて、日本で「極楽」!

それに対して台湾は、治安も良く、別れを惜しむ親日家も多く引き揚げるまでには「極楽」しかし、引き揚げて「日本」に帰国すると「地獄」!と表現されました。これは、前述のように、在台期間が長く、内地の親戚と疎遠になっていたということと関係があるように、思われます。

ところで、台北市建成小学校は、毎年、同窓会を東京周辺で行い、三年に一度は、七十五才〜九十五才までの超高齢者集団三十〜四十名が台湾を訪問して、昔と同じ場所にある台北市の「建成国民中学」を訪問し、現役の生徒さんたちの学校を挙げての熱烈歓迎を受けています。来年六月にも、台湾訪問が企画されています。お若い日台稲門会の皆様のご参加を期待しています。

同窓会会報「建成」を毎年、発行しています。長文になって恐縮ですが、平成二十一年(二〇の九年)に私が投稿した原稿「チンドン屋に送られて」を、最後に添付させて頂きます。

「チンドン屋に送られて」(引き揚げ記)

私の家族は、台北市建成町一丁目(現在の天水路)に住んでいました。有名な「まる公園」(現在の田環)のすぐ近くです。周辺はすべて台湾人の人たちでした。私の家から五、六軒となり「ポウタイチ」という四十才台のチンドン屋さんに住んでいました。小道具だけは、ハーモニカ、カネ、太鼓と揃っていましたが、半盲のチンドン屋さんで、いつも、余り見栄の良くない、みすぼらしい衣装をして広告、宣伝をしていました。私たちの子供の頃は、「チンドン、チンドン」とカネや太鼓が鳴り響くと、「それッ」と「ワ

ァー、ポウタイチさんが来たッ」とうちを飛び出して、彼の後をついてゆくのを楽しみました。

私たち家族の引き揚げは、昭和二十一年三月三十日、台北駅のフォームで引き揚げ列車に乗り込み、窓を開けて、台湾人の近親者と別れの挨拶を交わしている時、「チンドン、チンドン」と突如として鳴り物が始まったのです。いつものチンドン屋の格好をした「ポウタイチ」さんが来ていたのです。チンドン屋で日頃から鍛えた彼の音吐朗々とした素晴らしい日本語の演説が始まりました。

「このような形で、日本人の皆様とお別れするようになったことは極めて残念です。私たちのような盲人は、昔は、人間らしい生活はできませんでした。それが、このようにして「チンドン屋」として人並みに生計が立てられるようになったのは、すべて日本の教育のお蔭です。このご恩は、山よりも高く、海よりも広いものです。また、会う日まで、お元気で...」  
出発のベルが鳴りだして、今度は、ハーモニカやカネや太鼓の鳴り物入りで讚美歌の四の五番「また会う日まで」が始まりました。

「かみともにいまして行く道を守り  
あめのみかてもて  
ちからを与えませ  
また会う日まで  
また会う日まで  
また会う日まで...」  
列車は静かにフォームを後にしました。(引き揚げ者の後日談では、彼は、引き揚げ列車が出る時間には、毎日、来ていたということですが) 以上。

SSSS 略歴 SSSSS

理工学部(昭和二十七年卒)、早大・名誉

教授(平成十一年)八十六才、専門：品質管理、デミング賞本賞受賞(昭和五十九年)、日本品質管理学会会長(昭和六十年)、叙勲、瑞宝中綬章受章(平成二十四年)

会員便り

台湾寄席と鶴の恩返し

釧路空港ビル 山下 晋一  
(昭和五十四年商学部卒)

先日、台湾駐在中に所属しお世話になった東海ロータリークラブの二〇周年記念式典があり、台湾に行ってきました。皆さん再会をとても喜んでくれて、おかげさまで旧交を温めることができました。その際に李登輝總統の「新台湾の主張」を知り、台湾駐在時に「台湾の主張」を読んでとても感銘を受けたことを思い出し、早速読ませていただきました。

やはり再び感銘を受ける素晴らしい内容の本で、日本、台湾の今後の進むべき方向を示すとともに、具体的な施策の提言もされていました。

その中で大きく取り上げられているのが二〇一一年三月十一日の東日本大震災です。

二百六十億円を超える義援金に託された台湾の方々の日本への特別な思い、一九九九年の台中大地震発生時の日本からの救援・支援への台湾からの恩返しという熱い思いが書かれています。

富裕層に限らない台湾の皆さんからの温かい多くの義援金、速やかな台湾からの救助隊派遣に、こころから感謝することにも、震災発生後のYOUTUBEで観

させていただいた台湾の小学生や中学生の皆さんからの「加油! 日本!」の心温まるメッセージに私は涙を止めることができませんでした。

私は日本に帰国してから、落語家と講師の方々とのご縁をいただき、台湾駐在OBをメインメンバーとする老後の定期的な同窓会のような寄席「ねぎま座」が始まりました。

この「ねぎま座」を開催する中で、台湾でお世話になった駐在OBとして何とか台湾からいただいた義捐金に対するさやかながらの恩返しができないかという声が多く出てきました。

そうして実現したのが、「台湾寄席」です。当時、交流協会の池田元代表のご協力の下に、舟町元副代表、三井物産OBの高さん、三菱商事OBの小椋さん、SONY OBの坂井さん、老爺大酒店OGの目下さんをはじめとする台湾駐在OBの皆さんが台湾寄席実行委員会のメンバーとなって、ポランテアで日本交流協会、台北日本工商会、台湾日本人会等の関係機関と調整を進めました。そのご協力の下に、二〇一二年十二月に第一回目「台湾寄席」が交流協会文化ホールと工商会月例会で開催されました。

何とか生のプロの落語、講談を元日本人だった台湾のお年寄りに聞いていただきたいという皆さんの熱い想いの下にこの「台湾寄席」が開催され、日本語を学んでいる台湾の若い世代の方々も多く参加され、字幕等の翻訳がない中でも、笑うべきところで笑っていらつしやいました。

第二回目には「台湾を愛した日本人八田與一」、第三回目には「鄭成功」という創作講談も演じられ、多くの台湾の方々の涙を誘っていました。

おかげさまで、台湾協会主催、交流協会、工商会等の後援により今年十一月に第四回台湾寄席の開催が決定いたしました。昨年に引き続き、高雄、台南、台北(文化ホール、玉蘭荘、日本人会)で開催される予定で、日本人学校の小学五年生を対象とした寄席も検討されています。台湾の知識を持たずに台湾に赴任し、司馬遼太郎先生の「街道をゆく」第四の巻「台湾紀行」と出会って、台湾の素晴らしいことを知り、老台北はじめ多くの台湾人の皆さんにかわいがっていただき、台湾は私の第二の故郷となりました。

今年、待ちにまつた「KANO」を三月に見ることができました。朝鮮の京城中学、満州の大連中学とともに嘉義農林が甲子園に出場し、準優勝するまでの活躍ふりを観て、涙が何度も零れ落ち、止めることができませんでした。台湾人が自ら監督、プロデュースしたこの映画を観ることで、日台のこれまでの長い歴史を通して築き上げて来た強い絆を改めて認識することができました。

「新台湾の主張」を読んで、ひまわり学連のメンバーが行政院を占拠している中で、魏監督自らがその場で「KANO」を上映し、学生の皆さんが感激されたというお話を初めて知りました。台湾の皆さんの「KANO」に対する熱い思いを改めて知ることができ本当に嬉しく思いました。

釧路に赴任して三年、六月末で東京に戻り、十月に日本航空を定年退職いたしました。

「約束していたから、あなたが釧路にいる間に何としても釧路に来たい」といって、先日、台湾の弟が駆けつけて来てくれました。

四年前に釧路市から台北動物園に丹頂

鶴のつがいが送られ、今も元気にしています。台北動物園と釧路動物園の交流もとても活発です。

「台湾寄席」は私自身お世話になった台湾の皆さん、多くの義援金をいただいた台湾人の皆さんに対するさやかながらの恩返しとして始まりました。その際に私自身は釧路におりましたので、勝手に「鶴の恩返し」だと思っております。

これからも、日本の唯一の応援団、「台湾」を日本の皆さんに正しく理解していただくべく、日台交流のお手伝いをしながら、ライフワークとして情報発信していきたいと思っています。

今年七月にポイスカウト世界ジャンプリーが山口市で開催されます。これには海外から二万四千名を超えるスカウトが参加し、台湾のスカウトも約二千名来てくれます。その中に私の台湾の第二名もいます。台湾で仲良くさせていたいただいた方々にポイスカウト、カールスカウトの経験者が多く、私自身ポイスカウト経験者だったことから、台湾で皆さんと意気投合しました。そうした経緯もあり私自身現在、釧路で約五〇年ぶりにポイスカウト活動のお手伝いをさせていただきます。世界ジャンプリーにも参加する予定です。今からその再会を楽しみにしています。

台湾の生活・産業基盤を築いた後藤新平民政長官がポイスカウト日本連盟の初代総長であったこともあり、ポイスカウト活動においても日台交流が盛んとなっております。

現在のポイスカウト日本連盟理事長は自らポイスカウトであった早稲田大学奥島孝康元総長が務められています。

会員便り

### 杜の都での早稲田、

### 台湾との交流

井上 浩(昭和六十二年法学部卒)

仙台に住んで、はや四年が経とうとしています。東京を離れた後は、日台稲門会の各イベントにほとんど参加できず、会員の皆様とお会いできないことを残念に思っています。こうした中で、今回は、仙台での自身の早稲田、台湾とのつながりを紹介します。

現在、勤務している東北大学会計大学院は、国際的に通用する会計の専門家を養成することを目的としており、特に、平成二十三年からは台湾、中国、韓国の大学との会計学分野での連携・交流を深めています。そこで、私も台湾大学、中正大学、東呉大学、東華大学といった台湾にある各大学の研究者と知り合う機会を得ました。私がかつて台湾で勤務していたこともあり、各先生方には親近感をもって接して頂く中で、これまで知らなかった各大学の歴史や教育事情なども知ることができました。こうした台湾の方々のお話を聴いていると、再び台湾で勤務したい気持ちになります。

また、当会計大学院の学生の大半は、東北大学をはじめとする東北地方の大学出身者ですが、早稲田出身の学生や台湾からの留学生もいます。普段の講義では私が教える立場ですが、現在の早稲田界

限の様子や台湾の観光スポット、そして中国語については、私が彼らから教えてもらっています。これは、学習というより、楽習 といった感があります。

さらに、仙台には、日本東北台湾留學生會が組織されており、毎年、六月に台湾ちまき祭りを開催するなど、東北地区の台湾留學生同士の様々な交流活動が行われています(これも留學生から教えてもらいました)。機会があれば、私もぜひ参加したいと思っています。

このように、「杜の都・仙台」でも早稲田、台湾とのつながりを得ることができているのは、うれしい限りであり、このつながりをいつまでも大切にしていきたいと思っています。



台湾・中国の留學生たちと  
(筆者：後列左から二人目)



会員便り

### KANO見ましたか？

下中 幸雄(昭和五十一年商学部卒)

二月に「KANO—1931 海の向こうの甲子園」を観ました。台湾の老朋友から「KANO見ましたか？」と何度もメールが送られてきましたので、封切りと同時に観に行きました。汗まみれ、泥まみれ、純真、素朴、誠実、国・民族を超えての絆、団結、夢、希望……。クライマックスに近づくにつれそのような言葉が脳裏を駆け巡ると共に、涙腺が開きっぱなしになりました。四の歳代半ばの台湾人映画監督、魏徳聖が製作総指揮を取ったことに驚かされました。また、エースの呉明捷は早稲田に進み、首位打者を取ったのみならず、長嶋に抜かれるまで最多タイの本塁打七本を打った強打者であったことも知りました。感動しました。

五月十五日に、私が所属する「神戸早稲田倶楽部」と「神戸慶應倶楽部」の早慶ゴルフが開催されました。残念ながら勝利を収めることはできませんでしたが、春は「廣野」で行われますが、率直に申し上げると一昨年、昨年に続き大惨敗でした。秋は日本最古の六甲山上「神戸ゴルフ倶楽部」での開催ですが、こちらは過去二連勝しており、今年も春の雪辱を期して何としても勝利したいと考えています。

五月二十二日に「神戸早稲田倶楽部」

の総会が開催されました。「稲門会と言わずどうして早稲田倶楽部と言ったのですかね？」と言う素朴な質問に、大先輩から滔々と解説を頂戴しました。「設立した百十数年前にはまだ『稲門会』と言う名がなかったのだ！」

花も実もある、そして歴史あるクラブ」のことでした。納得。

六月に訪台します。住所を告げれば間違いなく行ってくれる計程車、安価で便利ですが、昨年訪れた時はついすべてMRTで移動しました。静かな車両、駅も綺麗、時間も正確、何よりも驚くのは乗客のマナーの良さです。今回もMRTを駆使して市内を駆け巡りたいと思っています。

最後になりましたが、日台稲門会の益々の発展、並びに皆さまのご活躍、ご健勝を心よりお祈りしております。

(一九九六年三月〜二〇〇〇年三月)

台北駐在)



関西在住の台湾移住者の集まり「日台OBネットワーク」のゴルフ会 (筆者：後列右から二人目)

第十八期(二〇一四年)定期総会・記念講演・交流の集い開催報告

二〇一四年六月十四日(土)十五:〇〇から大隈記念タワー地下多目的ホールにて日台稲門会第十八期定期総会が会員二十三名、会友一名の出席のもと開催された。二〇一三年度事業報告・決算報告並びに監査報告がなされたのち、二〇一四年度事業計画案、予算案の説明があり、いずれも原案通り承認された。また、来賓でお越しいただいた早稲田大学国際部戸枝久郎事務部長からは、総長選において鎌田総長が再選されたこと、早稲田大学国際化計画が着々と進められていること、中野国際コミュニケーションプラザ国際学生寮が完成したこと等が報告された。

第二部の記念講演会では、台北駐日経済文化代表処の沈斯淳代表(大使)による「台日関係の現状及び展望」と題する記念講演が行われた。この記念講演には、台北駐日経済文化代表処からは教育組の林世英副組長、通訳として林郁慧秘書、交流協会からは池田顧問(元駐台台湾代表、小松総務部長、また早稲田大学からは戸枝国際部事務部長が参加され、会員・会友、日台の学生を合わせて八十六名が出席した。講演終了後の質疑応答では、台湾学生による立法院占拠の話題をはじめ、今後の日台の関係に関し真剣な質疑応答

がなされた。

十八:〇〇からは、大隈記念タワー十五階の「西北の風」において日台交流の集いが行われた。岩永会長の挨拶に続き、記念講演で講師をしていただいた台北駐日経済文化代表処の沈代表(大使)、交流協会の小松総務部長、はるばる台湾からお越しいただいた早稲田大学台湾校友会の陳光敏会長、久々に参加された金美齡様にご挨拶いただいた。春の叙勲で瑞宝重光章を受勲された交流協会の池田顧問による乾杯のご発声のあと歓談に入り、沈代表(大使)や、池田顧問、また、早稲田大学台湾校友会会長など来賓の方々も交流の集いの最後までおられ、台湾からの留学生や日本の学生たちと親しく懇談頂き、交流の集いは盛会のうちに無事終了した。(幹事長 三村達 記)



議長を務める岩永会長



金美齡女史を囲んで



池田顧問、岩永会長、沈代表(大使)、齋藤



記念講演

「台日関係の現状及び展望」

台北駐日経済文化代表処

代表(大使) 沈斯淳氏

記念講演会抄録

中華民國(台湾)の外交政策の方向性

一、ピースメーカー、

二、人道支援の提供者、

三、文化交流の推進者、

四、新たなテクノロジーとビジネスチャンスのファシリテーター、

五、中華文化のリーダー、

の五つの役割を果たし、ソフトパワーと

スマートパワーを積極的に発信し、台湾

が尊厳ある国として国際社会に実務的に

発揮していく。

WHO(世界保健機関)の年次総会への

オブザーバー参加、ICAO(国際民間航空機関)への特別ゲストとしての参

加、台湾にビザ免除措置を付与する国・

地域の大幅増加などは国際関係の進展の

成果。さらにニュージーランドおよびシン

ガポールとの経済連携に関する協定を締

結した。またアメリカとの関係も台湾関

係法成立三十五周年を迎えて台湾への武

器売却のほか、経済など各分野の協力関

係も強化されている。

台北駐日経済文化代表処としては日本

交流協会と連携し、台日間のさまざまな

分野における取決め交渉、日本の国会議

員との交流、若い世代の交流促進、国際

見本市出展や文化交流のイベントの協力

などを推進している。

越え、二〇一一年の「台日投資協議」調

印に続き、昨年は電子商取引や金融管理

監督などの取決めに調印するなど、経済

面での協力は益々進んでいる。今後は台

湾のTPP(環太平洋パートナー協定)

参加について理解と支持を期待する。

昨年三月のWBC(ワールド・ベース

ボール・クラシック)における台湾対日

本の試合でファンや選手同士が互いの健

闘を称え合ったことや、大阪アジア映

画祭で、戦前夏の甲子園大会に出場した

嘉義農林学校の活躍を描いた台湾映画

『KANO』が上映され、野球を通じた

台日の絆が深まっていることなどは、「世

代を越えた交流が深まっている」こと

の表れである。

また、六月二十四日から東京国立博物

館で開催される台北・国立故宫博物院展

などの文化イベントを通して、台日友好

が深まることに期待する。

台日間の昨年の相互往来者数は三百六

十五万人を超え、今年にはさらに四百万人

突破を目標としており(註)、併せて様々

な観光キャンペーンが行われている。

最後になるが、日本の若者が台湾に強

い興味や関心を持っていることを感謝す

る。早稲田大学の学生及び研究者が台湾

奨学金などを利用し、台湾で留学・研究

を行うことを歓迎するとともに、共に将

来の台日関係を発展させていくことを希

望する。

註：本年一～四月の台日間の旅行者は約百六

十四万人。(台湾観光協会発表)

沈斯淳 駐日代表(大使) 略歴

沈斯淳(しん・しじゅん、Sun-Tsun Shen、

1953年9月生) 75年 国立台湾

大学政治学科卒業

80年 外交部北米司(局)、82年

駐ニューヨーク弁事処(書記官)、89

年 外交部国際組織司(局)課長、9

2年 外交部国際組織司(局)副司長、

95年 駐バンクーバー弁事処次長、

98年 駐カナダ代表処副代表、20

013年 外交部国際組織司長(局長)、

03年2月 外交部西アジア司長(局長)、

03年 駐チエコ代表処代表、08年

外交部主任秘書、10年5月 外交部

常務次長(事務次官)

2012年5月30日 台北駐日経済

文化代表処代表



日台関係を丁寧に説明する沈斯淳代表(大使)

祝 早稲田大学校友会日台稲門会  
会報第18号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處  
代表 沈 斯 淳

東京都港区白金台5-20-2

電話 03(3280)7811

春季講演会  
 『近くて近い台湾と日本』  
 江畑 哲男 氏

平成二十七年年度 新春講演会

日時：一月三十一日(土) 午後三時より

講演会場：二十二号館五〇二教室

講師：東葛川柳会代表 江畑 哲男氏

演題：『日台交流川柳句集』の編纂を

通じて学んだこと

川柳作家・江畑哲男氏と「東葛川柳会」の一行が初めて台湾の土に降り立ったのは、今から一〇年前の平成一七(二〇〇五)年三月二十七日のことだ。目的は、外吟行句会と「臺灣川柳會」との合同川柳句会、両会から三〇人余りが参加した。以来、川柳を通じた日本と台湾との海を越えた交流が本格的に始まった。

千葉県東葛飾で生まれた東葛川柳会は三〇年近い歴史をもち、現在江畑氏が代表を務める。東葛川柳会と臺灣川柳會とはそれまで会報のやり取りがあったが、初の海外吟行句会に台湾を選んだのは、  
 ①文化的土壌に共通性があること、②川柳の会があること、③外国ではあるが治安が安定し、民主化が徹底していること、④そして国として魅力的であること、による。

臺灣川柳會の創生メンバーは、概ね戦前の日本語教育を受けた台湾の人たち。現地駐在の日本人らも次第に加わり、平成一四(二〇〇二)年には臺灣川柳會と

改称し、現在は約五〇人の会員が台北で毎月句会を開いている。台湾短歌や俳句が詠み継がれていることは、呉建堂(孤蓬万里)氏が主幹した台湾歌壇で知られているが、川柳が詠まれ、台湾の川柳人と日本の川柳会が交流していることはほとんど知られていない。

ここで、江畑氏が編纂された力作『日台交流川柳句集』から、氏が紹介された台湾川柳会メンバーの作品をいくつか。

「エリーゼがゴミの時間と歌ってる」  
 迫田勝敏

台湾のゴミ収集車は「エリーゼのために」や「乙女の祈り」を奏でて走る。

「助けたり助けられたり三時半」  
 李錦上

銀行の閉店時間ぎりぎりに融資が成立か。

「バスが来て手をあげちゃった日本で」  
 吉岡桃太郎

手を高くあげないと停まってくれない、台湾のバス。

「二ホン語を知らぬ孫にもネンコロリ」  
 李琢玉  
 子守歌は言語の違いを越えて通用するようだ。

川柳には、本居宣長の言う「物はかなくしどけなげ」な日本文学の特長、日本語でしか表現できない、独自性が確かにあると感じる。小生には川柳を解する素養は全くないが、それでも挑戦してみようか、なほ不屈きまことを考えてしまふ。

江畑 哲男氏 プロフィール

(齋藤 晃記)

江畑 哲男(えはた・てつお、1952年生まれ) 75年 早稲田大学教育学部 国語国文科卒

1987年 東葛川柳会を今川乱魚師らと興す、95年から東葛川柳会と台湾川柳会(当時は台北川柳会)との交流が始る、川柳を通して日台交流の深化に尽力、14年3月 台湾川柳会との共編で『近くて近い台湾と日本・日台交流川柳句集』を上梓。著書・講演など多数  
 現在「東葛川柳会」代表、全日本川柳協会常任幹事、早稲田大学オープンカレッジ講師、獨協大学オープンカレッジ講師、千葉県川柳作家連盟副会長、早稲田大学 国語教育学会会員



蔡焜燦氏と江畑 哲男氏(靖国神社にて)

日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘(昭和34年商研卒)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>

日本李登輝友の会 神奈川県支部長

高座日台交流の会 会長

早大日台稲門会 顧問

### 日台稲門会 学生との交流会開催報告

二〇一四年十二月十三日(土)、早稲田大学キャンパス南門の前にあるレストラン『高田牧舎』にて、日台稲門会の幹事十名、早稲田大学台湾同学会(WTSA)の留学生十二名、日本台湾学生会議の学生九名の総勢三十一名が集い、交流会を開催しました。

十八時過ぎ、日台稲門会岩永会長の挨拶と乾杯にて交流会はスタート。続いて、WTSAのIRIS郭旧会長、RUBY陳新会長、日本台湾学生会議の田辺会長より挨拶がありました。

日台稲門会幹事からは、二〇一五年一月三十一日(土)に予定している日台稲門会の新春講演会の案内をし、多くの学生の参加を呼びかけました。

今回の交流会のテーマは「日台交流に關しそれぞれの果たす役割」とし、三グループに分かれて食事をとりながら、活発な意見交換、歓談をしました。

それに加え、現在の学生生活、今後の進路等いろいろな話に花が咲き、盛会の中、日台稲門会高橋幹事長の中締めで二の時過ぎに終了しました。

### ハワード・ハギヤ奨学金 創設に係る調印式を実施 政治経済学部二ユースより

この度、台湾を拠点とする Shur Joint 企業グループの創業者萩谷博(Howard Hagira)様から政経百三十周年記念グローバル・リーダー養成ファンドの趣旨にご賛同いただき、多額のご寄付をいただきました。

早稲田大学政治経済学部では、ご寄付をもとに記念奨学金(Howard Hagira Scholarship(ハワード・ハギヤ奨学金))を創設することを決定し、二〇一四年八月四日(月)に早稲田大学において、奨学金調印式を萩谷博様と佐藤正志政治経済学部長により行いました。

奨学金の概要は以下の内容となります。

■名称: Howard Hagira Scholarship (ハワード・ハギヤ奨学金)

■目的: 二〇一五年度より早稲田大学から台湾に留学する日本人学生を支援し、台湾から早稲田大学を目指す優秀な学生の受け入れを行います。

■対象: 台湾への派遣学生二名(日本人派遣学生) / 年間  
台湾からの留学生三名(台湾人留学生) / 四年間継続

今後、本奨学金によって、本学と台湾との間で留学生の交流が活発化し、日台

間の相互理解の増進に寄与することが期待されます。



新三号館ラウンジにて、岩永会長と萩谷博氏(壁面のプレートにハワード・ハギヤ奨学金の説明があります)

### 訃報

台北稲門会元会長・萩谷博氏(なぐるほど・ザ・台湾社長・発行人、Shur Joint 企業グループ創業者)が六月五日(金)有明がんセンターで急逝されました。葬儀は六月八日、ご家族により常陸太田市西山ホールで執り行われ、岩永会長が弔問されました。

氏は昨年四月五日の当会講演会で講師を務められ、また今年一月三十一日の講演会にも病をおして奥様と参加され、出席の皆様と親しく交流されました。茲に謹んでお悔みを申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りします。



## 日本語教育と進学指導の JET

- 大学院進学コース ●大学進学コース
- 日本語コース ●短期コース

### 学校法人 JET 日本語学校

名誉理事長 金 美齡 (昭和46年文研博士単位終了 元早大講師)

理事長 越野 充博 (昭和57年商学部卒)

校長 井上 靖夫 (昭和60年一文卒 早大大学院講師)

東京都北区滝野川7-8-9 TEL.03-3916-2101

Email: [info@jet.ac.jp](mailto:info@jet.ac.jp) Homepage: <http://jet.ac.jp/>

### 台湾校友会 二〇一四年度総会の参加報告

二〇一四年十一月二十九日(土曜日)に高雄にて開催されました、本年度の台湾校友会総会及び関連行事に参加いたしましたので、その概要を以下のように纏めてみました。

四年振りに高雄で開催された総会は、地元でも有名な高級海鮮料理店「巨南担仔麵」での開催となりました。ちょうどその日は大安吉日かつ選挙の投票日だったため、他のフロアでは結婚式の披露宴、パーティー等が開催されており、店全体が華やいだ雰囲気にも包まれておりました。五階の会場に開始時刻前に到着した頃には既にかなりのテーブルが出席者で埋まっており、出席者台湾校友六十六人、日本人校友七十三人合計百四十人となりました。また受付の横では、台北稲門会特製の帽子・ポロシャツ等の販売も行われておりました。

定刻通り十八時から、陳光敏・台湾校友会長の挨拶によって総会が始まり、鎌田薫早稲田大学総長の挨拶、岩永康久・日台稲門会会長をはじめとする、日本各地から参加の各稲門会(行政書士、遠州、福岡、沖縄等)出席者代表のスピーチが続きました。その後、佐田・高雄稲門会会長による乾杯となりました。

続いて、高雄日本人学校の中学生有志による和太鼓演奏が披露されました。同中学生部の教師の方が指導されているという演奏は、とても中学生とは思えないほど見事なものでした。その後は、あちらこちらの

テーブル席にて、日本と台湾との交流の絆を深める光景が数多く見られました。



岩永会長のスピーチ



和気藹藹と盛りあがる

最後は、いつものように出席者全員で肩を組んでの応援歌「紺碧の空、人生劇場の唱和、そして校歌斉唱・エールへと盛り上がり、夜九時を過ぎてお開き。ちなみに歌唱・エールのリードは、遠州稲門会の青島幹事長によるものでした。

二次会は、日台稲門会会員をはじめとする有志と早稲田から台湾への留学生の合計二〇名程度が、カラオケ店「彩」にて、日付が変わる時刻まで交流を深めました。なお、体力のある若手グループは、さらに三次会へと流れたという噂です。

翌三十日(日曜日)は、信誼ゴルフ場でのゴルフコンペ参加者と、烏山頭水庫(うさんとうダム)、八田與一記念園区を巡る観光ツアー参加者との二手に別れ、恒例の行事を楽しみました。鎌田総長、岩永日台稲門会会長らはゴルフ組、高橋幹事長以下、日台稲門会会員の大半は観光組へ参加。以下は、小生が参加した観光プログラムについて述べたものです。

宿舎の寒軒国際大飯店を朝八時半頃に出発した二階建て観光バスは、ほぼ満席となる四〇名前後の参加者を乗せ、中山高速公路を走り一路「烏山頭ダム」を目指しました。車内では自己紹介も行われ和気あいあいとした雰囲気でしたが、日本人よりも家族連れで参加した台湾人の人数の方が多かったです。

八田與一記念園区(記念公園)には一〇時過ぎに到着しました。ここは二〇一一年に開園したもので、ご承知の方が多いとは思いますが、八田與一は台湾で最も尊敬されている日本人で、烏山頭ダムと周囲の嘉南平野の灌漑水路・施設の建設を主導した土木技術者です。八田與一の指揮下に、台湾総督府は膨大な資金を投じて、工事開始から一〇年後の一九三〇年に東洋一と呼ばれるダムと灌漑水路網を完成させ、不毛の嘉南平野を穀倉地帯に変えました。現在では、その形が珊瑚に似ている風光明媚な夕湖をはじめ、周囲全体が八田與一の業績を

記念した公園として整備され、ホテルやレクリエーション施設もつくられています。

私も一行は、まずダムの水を放流する送水口とその業績を紹介する八田與一記念室を見学、記念写真撮影しました。ちなみに、この送水口は、八田與一の妻外代樹(とよき)が、戦時中の一九四二年に亡くなった夫の後を追って、一九四五年九月一日に身を投げた場所ということです。次に、八田與一の銅像とその夫妻の墓を訪ね、その隣にあるダム建設工事に使用された蒸気機関車を見学しました。これらはダムの堰堤の一段高い所にあり、ダム湖全体を見渡すことができます。その後、ダム工事中に使用された日本人関係者の宿舎を見学しました。これらは資料を元に、四棟のみ当時のままに再現された日本式住宅で、各戸とも一家族が生活するには十分過ぎる広さをもっていました。住宅の前には、当時では珍しいテニスコートが二面造成されていました。工事期間中には病院や学校もあって、山中にも拘らず、かなりの賑わいを呈していた様子です。また、敷地の一面には森喜朗元総理大臣が寄贈した桜の木も植えられています。

見学終了後、十二時頃に八田與一記念公園を出発、昼食会場へと移動。昼食は、台南市にある中華料理店「葉陶楊坊」での会食となりました。賑やかな会食の後、十四時過ぎに高雄の寒軒国際大飯店への帰路に着き、同大飯店へは十六時頃の到着となりました。

この観光プログラムは、参加者全員の名札作成等、台湾側の十分な準備があったため、予定通りの行動で終えることが出来、非常に充実した楽しい内容であったと思います。

ます。観光の責任者鄭氏をはじめとする事務方に感謝いたします。(以上は当会ホームページに掲載された、会員・川村淳一氏の寄稿抄録であることをお断りします。)



### 台湾校友会 訪問記

安本 恵

青葉が目まぶしいこの頃、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年十一月二十九日、早稲田大学台湾校友会二〇一四年総会にご招待いただき初めて高雄を訪問する機会を得ました。このような機会を与えていただいた台北稲門会及び日台稲門会の皆様から感謝いたします。

早稲田大学台湾校友会総会への出席、そして念願の烏山頭水庫、八田與一記念公園までご案内いただき、大変充実した訪問となりました。

### 「早稲田大学台湾校友会二〇一四年総会」

平成二十六年十一月二十九日(土)、福岡空港から桃園国際空港へ降り立ち、高速鉄道で左営駅へ。そこで川村由紀さんと合流し地下鉄でホテルの最寄り駅へ。ホテルにチェックイン後、早稲田大学台湾校友会総会会場へ。とても豪華な会場、また人の多いことに先ず驚き。通された席で待っていると間もなく開会、黒地に薄桃色の桜の描かれたハッピを着た高雄日本人学校のみなさんが登場し、勇ましい和太鼓演奏で歓迎してくださいました。その気迫と息のあった演奏、そして台湾でこんなにも「日本」を感じさせてもらったことに感激し、開始早々涙が溢れそうになってしまった。日本全国から大勢の校友が結集した会場は終始温かい空気に包まれ、当初緊張していた私もいつの間にかすっかりリラックスしていた。台湾での留学や生活を経験したことのない私にとって、久しぶりの再会を懐かしんでいる方々や台湾で活躍されている方々の姿は皆、とても眩しく映った。このような温かく盛大な会に交えていただいたことに感謝しつつ、豪華な馳走をルンルン気分ですらげ、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまった。

### 「烏山頭水庫、八田與一記念公園」

翌三十日(日)、ホテルにバスが迎えに来て、烏山頭水庫、八田與一記念公園へと案内していただいた。烏山頭水庫と三年輪作法で台湾南部の

不毛の大地を大穀倉地帯に変えた八田與一という日本人の土木技師が今も台湾で人々から敬愛されその功績が語り継がれているというのを以前に本で知り、いつか実際にそのダムをみてみたいと思っていたが、まさかこんなにも早くそれが叶うとは想像していなかった。

到着後最初に案内していただいた八田與一記念館には、当時の写真、図面等が大切に展示保存されていた。また、八田技師の墓前に供えられた美しい花々を見ていると、八田技師が今なお愛され尊敬されていることが手に取るように理解できた。暑い日差しの中でエメラルドグリーン美しく広大な湖を眺めていると、ダム建設に関わった方々の情熱が今も息づいているように感じられた。

近年完成したという八田與一記念公園では、烏山頭水庫建設関係者住宅区を復元しており、当時の様子をうかがい知ることができた。そこには四棟の日本式木造家屋が再現されており、庭や応接間等、細部にわたるまで実に丁寧に再現されていた。

その後、台湾の有名な女流詩人の名前を冠しているというレストランにてとても大変豪華な昼食でもてなしていただいた。用意されたメニュー表には早稲田のロゴマークが印刷されており、これも友情の証と心から感激した。

末筆ながら、この度にご招待くださった台北稲門会の皆様、道中常に気にかけてくださった日台稲門会の岩永先生、高橋さん、おふたりの川村さんに感謝申し上げます。

美しいピスタとコーヒーで、皆様のお越しをお待ちしております!

#### <プロント 越谷レイクタウン店>

〒343-0826 埼玉県越谷市東1-21-1 オイルレイクタウンKAZE C201

TEL:048-934-3201 最寄駅:越谷レイクタウン駅

営業時間:平日 土 日 祝日 カフェ 9:00~17:00 パー 17:00~23:00 定休日:無し

#### <プロント 大塚カンファレンスセンター店>

〒100-0004 東京都千代田区大塚1-3-2 大塚カンファレンスセンターB1F

TEL:03-6212-0036 最寄駅:大塚駅

営業時間:平日 カフェ 7:00~17:00 パー 17:00~23:00 土カフェ 8:00~17:00 定休日:日祝

#### <プロント カルタ汐留店>

〒105-0021 東京都港区新橋-8-2 カルタ汐留B2F

TEL:03-5537-2344 最寄駅:汐留駅 新橋駅

営業時間:平日 カフェ 7:00~17:30 パー 17:30~23:00 土カフェ 10:00~17:30

パー 17:30~22:00 日 祝日 カフェ 10:00~18:00 定休日:不定休



### 第十回早慶ゴルフ対抗戦結果報告

#### 早稲田、二連勝!

(対戦成績 早稲田四勝六敗)

日時:二〇一四年十一月七日(金)  
会場:習志野カントリークラブ

クイーンコース(千葉県)

二〇一四年十一月七日(金)、秋晴れの絶好のコンディションの中、第十回早慶ゴルフ対抗戦が、恒例の習志野カントリークラブで開催されました。今回の決戦のコースは、クイーンコース。  
参加者は、早稲田七名、慶應六名。

前回五月の早慶戦で敗退を喫した慶應は、ベストメンバーを揃えて挑んできました。

一方の早稲田は、十一月一日の台湾での早慶戦の二連勝に続けと、すぐりし精鋭 闘志は燃えて、決戦に臨みました。

前半終了後のランチャタイム、両校チームの首脳陣は戦況の把握、分析に余念がありません。一部の戦況分析では慶應有利か?との声もありました。後半戦も、秋のやわらかな日差しの中、両校は熱く戦いを繰り広げました。

懇親会は千葉ニュータウン駅前の居酒屋に場所を移して開催。

いよいよ結果の発表となりました。成績上位からの発表、一位、二位は全くの同スコアで互角。三位で慶應が一打優位、そして四位で早稲田が二打逆転。そして、最後の第五位の発表!緊張が高まります。



| 早稲田 |     | 慶應義塾 |     |
|-----|-----|------|-----|
| 選手名 | グロス | 選手名  | グロス |
| 岡島  | 94  | 飯沼   | 94  |
| 佐藤  | 94  | 和田   | 94  |
| 岩永  | 96  | 関    | 95  |
| 高橋  | 96  | 金光   | 99  |
| 神田  | 102 | 宗澤   | 102 |
| 合計  | 482 | 合計   | 484 |
| -2  |     |      |     |

結果は、早稲田、慶應同スコア。よって、早稲田が二打差にて二連勝!早稲田チームは勝利の歓喜に溢れました。試合が終わればノーサイド、慶應チームは早稲田の勝利を讃え、また早稲田は慶應の健闘を讃え、両校の懇親を大いに深めました。懇親会の最後には、両校の校歌、応援歌を高らかに唄い、お開きとなりました。  
我こそはと思う早稲田メンバーの方、是非とも次回の早慶ゴルフ対抗戦にご参加ください。

### 第十一回早慶ゴルフ対抗戦結果報告

#### 早稲田、三連勝!

(対戦成績 早稲田五勝六敗)

五月十五日 於習志野カントリークラブ  
クイーンコース 快晴微風。

早稲田は三連勝を期して、慶應はそれは許さじ連敗を脱しようとして、両校共ナイスプレーを目指して熱い戦いを繰り広げました。

結果 団体戦では早稲田大学の勝利に終わりました。



試合後 近くの居酒屋に場所を移し懇親を兼ねた成績発表会を開催しました。試合を終えてノーサイド。慶應は早稲田の団体戦勝利を祝し早稲田は慶應の健闘を讃え和気藹々と参加者の懇親を深めました。(神田記)

〈団体戦〉 早稲田 優勝  
〈個人戦〉 新ベリアによる

優勝 神田 正治(早稲田)  
第二位 小山 信雄(慶應)

第三位 佐藤 俊夫(早稲田)

ニアピン賞 #15 金光 恭典

#17 寺田 修、#4 和田 滋

#7 岩永 康久



| 早稲田 |     | 慶應義塾 |     |
|-----|-----|------|-----|
| 選手名 | グロス | 選手名  | グロス |
| 佐藤  | 82  | 金光   | 94  |
| 鎌田  | 93  | 宗澤   | 95  |
| 岩永  | 94  | 小山   | 98  |
| 岡嶋  | 96  | 飯沼   | 100 |
| 神田  | 96  | 和田   | 100 |
| 合計  | 461 | 合計   | 487 |
| -26 |     |      |     |

台湾三田会との交流

■早稲田キャンパスツアー

日時・場所：十月十一日(土)

キャンパスツアー 十七時〜

懇親会 十八時〜 金城庵

参加者：日台稲門会十名、三台会六名

昨年春の三田キャンパスツアーの返礼に、当番校として当会は早稲田キャンパスを案内しました。三田での池井名譽教授の学識豊かな説明に比べるとやや準備不足の感はありましたが、そこは山崎聡幹事の迫力ある説明で補いました。大隈講堂、大隈会館、ユニショップ(記念品購入)、政治経済学部新三号館、大隈重信候銅像(朝倉丈夫・作)、坪内博士記念演劇博物館及び坪内博士胸像、旧安部球場内安部磯雄先生胸像、飛田穂洲野球部初代監督胸像、などを小一時間かけて案内しました。



見学の後は恒例の金城庵での懇親会。大いに盛り上がったことを報告します。

■台湾映画「KANNO1931 海の向こうの甲子園」映画鑑賞と

池井優 慶應義塾大学名誉教授 講演

及び台湾料理 新春昼食会

日時・場所：一月二十四日(土)

映画鑑賞 十時三〇分

角川有楽町シネマ

講演・昼食会 十四時〜

台湾料理「あかちようちん」

参加者：十五名

池井名譽教授、二水会(池井ゼミ)

五名、三台会 八名、日台稲門会一

名(齋藤)

愈々あの「KANNO」がやってきた、ということの上映三〇分前には一同全員集合、全席指定なのでゆったり観ることが出来ました。「思いつ切り泣きに来た」と気合の入っている先輩に煽られ、期待に満ちた幕前。終映後は其々の想いを胸の裡に秘め、懇親会会場に向いました。懇親会では池井名譽教授の講演を伺いながら、台湾家庭料理に舌鼓を打った次第。池井名譽教授のご指摘を紹介します

- 一、近藤監督の就任の年―昭和四年ではなく昭和六年
- 二、嘉南大圳の完成年―昭和六年の嘉義農林甲子園初出場の前年(昭和五年)
- 三、嘉義の噴水池の完成年―事実上昭和二年に既に完成
- 四、嘉義駅の改築―昭和八年に現在の駅舎に改築

五、呉波(呉昌征)は高雄出身、従って嘉慶のグラランドに入りした事実なし

六、上松耕一(三番・シヨート)の最終

打席は八回、また最後の打者は呉明捷

ではなく、福島又男(九番・ライト)

勉強になりました。

■交流会

日時：四月十七日(金)

場所：御徒町 客家料理「新竹」

三台会・和田会長のご紹介です。慶應は実にこういったお店を「存心」で、感心しました。参加メンバーは写真を「寛く」下さい。いつも通り和気藹藹でした。



鈴木歯科クリニック Suzuki Dental Clinic

東京都豊島区池袋4-25-1 絨亜ビル1F 〒171-0014

Phone 03-5950-8241 Fax 03-5950-8242

歯科医師／歯学博士 鈴木章敬 Akiyoshi Suzuki, D.D.S., Ph.D.

タバコ 肥満は歯周病リスクを高めます

適切な口腔ケア(歯ブラシ・舌ブラシなど)で歯周病は予防できます! 更に、カゼ、インフルエンザの予防になります!

よく噛んで! 歯周病予防と肥満予防!

口腔ケアで高齢要介護者の誤嚥性肺炎を予防しましょう!

### 台湾原声童声合唱团

昨年八月一日(金)、新宿文化センターで「台湾原声童声合唱团」(Taiwan Vox Nativia Children's Choir TNCC)のコンサート「玉山天籟 (Voice of Jade)」があり、聴いてきました。同合唱団は、台湾最高峰・玉山を擁す台湾南投県信義郷に住む台湾先住民族の子どもたちで構成され、指揮者は地元の小中学校校長を務めるブヌン族の馬彼得さんです。

子どもたちの歌声が純粋かつ伸びやかで澄み、まるで天使のよう、ということではさて置き、この合唱団のアイデンティティは、台湾先住民族の伝統音楽を世界に届けることにあります。ブヌン語による「拍手歌」、「獵祭」は初めて聴く、非常に美しい歌でした。その他中国語の「台北の天空」、「台湾語の一天黒黒」、「叫做台湾



的搖籃」、客家語の「花樹下」などが披露されました。また「明天会更好」は小生が台湾赴任当時に流行った曲でとても懐かしかった(香港映画「男たちの挽歌」の一シーンに流れていましたね)。

周美青・馬英九総統夫人(同合唱団訪日団・名誉団長) および沈斯淳・台北駐日経済文化代表処代表も臨席されていたのですが、ガードが堅く未確認。なお当日は、九〇年近い歴史を持つ日本の社会人男声合唱団「男声合唱団東京リーダータワーフェル1925」が賛助出演しました。(齋藤晃記)

### 台湾の近代美術 — 留学生たちの青春群像

昨年九月十二日〜十月二十六日の間、上野の東京藝術大学にある藝大美術館で「台湾の近代美術—留学生たちの青春群像(一八九五—一九四五)」展(主に油彩画)が開催され、観てきました。

同展のテーマは、日本殖民時代に台湾から来日し、若き日々を東京美術学校(美大・現藝大)で過ごした留学生の軌跡を追う、かつ、彼らを教育・指導した石川欽一郎との関係の紹介です。ともあれ、肝心の彼らの作品を実際に見ることができ、台湾に行かない限りありません(故宮博物院と異なり、一か所に纏まっている訳ではないし、個人所蔵も多い)ので、重要な催しでありました(多謝)。メインは陳澄波ですが、その次が劉錦

堂、郭柏川でしょうか。それぞれ自画像、静物、風景画など、西洋的ではない台湾独特の、所謂南国情緒溢れた作品が数多く展示されています。また彼らは台湾画壇のみならず、戦後は大陸や欧州でも活躍しています。(陳澄波は二二八事件に巻き込まれ、「KANO」で紹介された嘉義駅の噴水池前で銃殺されました。)

黄土水の彫刻二点(釈迦下山(釈迦牟尼像?)、「顔國年立像」)が展示されています。黄土水は東京美術学校で高村光雲、北村西望、朝倉文夫らに師事し、光雲の息子・光太郎と親交を結んだ、当時の彫刻界の超エリート。「笛吹く山の童(山童吹笛)」、「郊外」、「ポーズせる女」が帝展(現・日展)入選。「水牛の群像」、「甘露水」も秀作です。寝食を忘れた創作活動で昭和五年池袋で病死(三十六歳)。

残念なのは、藍蔭鼎の作品がなかったこと。(齋藤晃記)



### KANO 1931

### 海の向こうの甲子園

本作品は、既に多くのかたがたご覧になっていると思いますので、ここでは特に気のついたことを簡単に述べさせていただきます。

まず、選手役がすべて現役か経験者という点で、非常にリアリティがあることと言ってもありませんが、実在の歴史に残る人物を登場させるにあたり、それぞれの人生の背景に通じる描き方も丁寧です。例えば、三番・遊撃の上松(あげまつ)耕一(戦後・陳耕元、ブユマ族)選手の後については、司馬遼太郎が『台湾紀行』の「千金の小姐」という章で詳しく触れています。劇中人力車に乗って現れる謎の美少女は、実は雲林北港の大地主家庭のお嬢さんで、後日上松選手に嫁ぐ・蔡招招(昭昭?)さんです。上松は嘉義農林学校で教師と野球部コーチを務め、戦後は台東農校の校長となるのですが、当時でも先住民族と漢族の結婚は大変なものだったでしょう。

また投手も、嘉義中学の日高、甲子園二回戦の札幌商業・錠者、決勝戦の中京商業・吉田正男(夏の大会で唯一の三連覇を達成した大投手であり、甲子園大会での戦績は二十三勝三敗)と、妙に説得力のあるキャラクターでした。呉明捷の息子さん(嘉義市長)、お孫さん(台北商業の投手)が出演しているのは、演出にリアリティをプラスするためでしょうか。この大会には朝鮮から京城商業、満州から大連商業が出演しています。それぞれ同じようなドラマがあったはずですが、お国柄から彼らの活躍が紹介されることがないのは残念です。(齋藤晃記)。

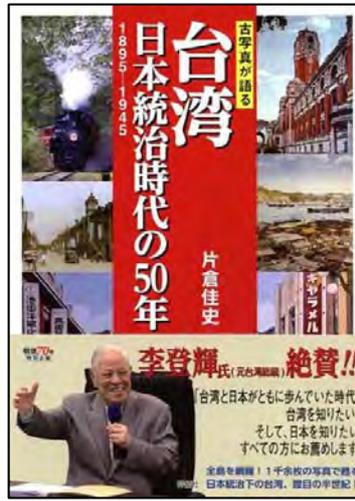
書籍紹介

『古写真が語る台湾』

日本統治時代の50年

1895-1945

片倉佳史著 祥伝社



「台湾の達人」こと、片倉佳史氏の新著です。半世紀におよぶ日本殖民時代の足跡を、約千二百枚もの写真と愛情溢れる解説文で紹介しています。その意味で本書は貴重な集大成であり、台湾スタンダードとして永く残るものと思います。

写真は、「日本地理風俗体系 台湾篇」、「日本地理体系 台湾篇」、「始政四十周年記念台湾博覧会画帖」、「台湾国立公園写真集」、「台湾写真帖」などの刊行物、「鹽水港製糖(株)社史」などの社史、絵がき、および台湾協会や個人からの提供に拠っており、当時の台湾で暮らした人々の営為が偲はれます。

紹介される範囲は、台湾本島や澎湖諸島のみならず、日本領土だった新南群島(現在のスプラトリー諸島を含む)や東

沙(中華民国管理下)・西沙諸島(パラセル諸島)にまでおよびます。必見。附編として、「詳録・裕仁皇太子の台湾行啓」と「台湾歴史年表」が併録されていますが、これも資料として重要。

「台湾行啓」は摂政宮時代の昭和天皇が大正十二年四月、十二日間にわたって台湾を視察した時の全日程を記述したものの。「台湾に革命が起きる日」(鈴木明著 リクルート出版)では主にエピソードが中心ですが、片倉氏は事実を丹念に記述しています。「台湾年表」は「図説台湾の歴史」(周婉窈著 平凡社)より詳しい。

李登輝元総統も絶賛!惜しむらくは写真が小さく、高齢者としては天眼鏡がないとチト苦しい。しかし、直ぐ読まなくとも、台湾についてなにか閃いた時の事典代りに、是非直ぐお買い求めください。傍にあるだけで心強い。

「台湾風景印 台湾・駅スタンプと風景印の旅」(片倉佳史著 玉山社)との併読をお薦めします。(齋藤記)

『台湾現代史』

二・二八事件をめぐる歴史の再記憶

何義麟著 平凡社



とても重要な内容です。二・二八事件をキーワードとし、それをどう認識するかで歴史観が異なる族群の亀裂。簡単に言ってしまうと一九四七年史観と一九四九史観の違いです。一九四七年史観とは二・二八事件に遭遇し、その歴史記憶しか許されなかった本省人の歴史認識、一九四九史観とは国共内戦で毛澤東率いる中国共産党に敗れ、意に反して台湾島に「大移動」して来た外省人のそれを指します。

その違いを、高校歴史教科書の「日治」

「日扱」表現を巡る論争や、国民党重鎮の投書によって引き起こされた台湾社会での激しい論争(二・二八事件の犠牲者数に関する認識の違いを含めて)を紹介しつつ説明する。

この問題は実は、日中韓の共通歴史認識を確立しようという不毛の議論とも似たところがありますが、著者が言うように、「歴史認識や歴史解釈は誰も独占できない」のであり、お互いがその歴史時点での状況に立ち返って判断し、理解すべきと考えます。

さて、本書ではオーストロネシア語族(南島語族)にも触れています。オーストロネシア語族とは台湾から東南アジア島嶼部、太平洋の島々、マダガスカルに広がる語族。台湾先住民語族との類縁性が証明されたことから、ポリネシアに住む民族はみな台湾から分かれていったという学説があります。ここで素人ながら疑問は、日本殖民時代の台湾先住民の言語が共通性を持たないことから日本語を共通語とした、という話。(齋藤記)

『今上天皇 つくらざる尊厳』

級友が綴る明仁親王 明石元紹著 講談社



冒頭はじめに「筆者は、一世の中で、間違った言葉として『ご学友』と言われることがある。(中略)今上陛下には(略)ご学友という存在はない。」と断っています。昭和天皇は、学習院初等科を終えられたあと特に開設された御学問所で、学習院の同級生から特に選ばれた五人と一緒に学ばれ、この五人のみを「学友」と称したが、今上陛下はそうではないからです。※「級友が語る明仁親王」

とはいうものの筆者は、女子学習院幼稚園時代の東宮仮御所での相手から始まり、高等科では馬術部活動をともにされ、慶應義塾大学卒業後もボロ競技など陛下との紐帯は連綿として続いており、単なる級友の範疇を超えています。

実は小生、これ以上紹介することを憚る立場なので、「皇太子の窓」(E. G. ヴァイニング著 文芸春秋社)、「ジミーと呼ばれた日」(若き日の明仁天皇)、「工藤美代子著 恒文社」を併読することを薦め、筆を置きます。(齋藤記)

### 新会員・会友紹介

前回総会以降入会された会員・会友の皆さんを紹介します。台湾をこよなく愛するかたがたです。

#### 【新会員】

池澤 辰夫 さん  
昭和二十七年理工学部卒業

江畑 哲勇 さん  
昭和五十年教育学部卒業

小川 英郎 さん  
昭和五十一年理工学部卒業

鎌田 智行 さん  
昭和四十六年政治経済学部卒業

【新会友】

松澤 寛文 さん  
一般財団法人台湾協会評議員

また大変残念ではありますが、次のかたがたが退会されました。長い間お世話になりました。

#### 【退会会員・会友】

石超宇さん、石井達也さん、大山高明さん、柿澤博右さん、黄文雄さん、児玉勇さん、坂井俊一さん、阪根嘉苗さん、佐藤裕彦さん、島田浩一さん、鈴木康徳さん、高橋和正さん、西川潤さん、西本誠さん、西脇久夫さん、村野幸哉さん

### 訃報

当会顧問・興石那豊氏が五月九日(土)病により急逝されました(享年七十歳)。葬儀は桐ヶ谷斎場で執り行われました。当会での氏の生前の活躍を偲び、謹んで心よりご冥福を祈ります。

### 年会費のお支払いについて

本年度会費の納入を、よろしくお願いいたします。なお、会計担当幹事の交替に伴い、銀行振込口座が変更しましたので、ご注意願います。

#### ●銀行振り込みの場合

みずほ銀行 六本木支店(店番053)

口座番号 普通預金 44489637

口座名義 ニッタイトウモンカイ

#### ●郵便局振り込みの場合

加入者名: 日台稲門会

口座番号: 0013008169805

\*銀行または郵便局の払込金受領書をもって領収書に代えさせていただきます。当会発行の領収書がご入用の場合は、振込取扱票の通信欄にその旨(記入ください)。

### さよなら記念会堂、生まれ変わる「文キャン」

早稲田大学は、戸山キャンパス記念会堂(三十七号館)を老朽化に伴って建て替え、スポーツコミュニケーションや学習スペースなども併設した多機能型スポーツアリーナ(新三十七号館)を新築することを決定しました。アリーナは地下二階地上二階部分に配置し、屋上にある地下部には計算かな状の広場を設けるなど先進的な設計の施設となります。完成予定は二〇一九年三月で、今年七月からマヨなら記念会堂と銘打った、各種スポーツ・学生団体のイベントを開催します。(口より)

### 校友会情報

#### 第五十回ホームカミングデー

- 二〇一五年十月十八日(日曜日)に開催予定
- ①〈卒業後五十年目〉一九六六年次(昭和四十一年卒業)の方
- ②〈卒業後四十五年目〉一九七一年次(昭和四十六年卒業)の方
- ③〈卒業後三十五年目〉一九八一年次(昭和五十六年卒業)の方
- ④〈卒業後二十五年目〉一九九一年次(平成三年卒業)の方
- ⑤〈卒業後十五年目〉二〇〇一年次(平成十二年卒業)の方
- ⑥①⑤と同期入学で卒業年の異なる方
- ⑦①⑤の年および開催年に推薦校友になつた方
- ⑧卒業後五十一年目以降の方には案内状はお出ししておりませんが、是非おいでください

### 編集後記

六月に入り、百二十五万円の個人年金情報が日本年金機構への不正アクセスにより流出した、という報道がありました。日置いて太平洋対岸の米国では、連邦政府職員の個人情報最大四百万人分ハッカーに盗まれた可能性があると、という発表がありました。ともに日本の報道ですが、何か違和感がありますね。国内での事件に対しては、「この甘さでは個人情報報は守れない」の立場で日本年金機構を責めています。まあ、それはさうですが。しかし米国については、「米政府当局者は中国に拠点を持つハッカーの犯行とみており、FBIなどが捜査を始めた」との報道。アクセス元が共通していると推定されていますが、このスタンスの彼我の差は、どこから来るのか、盗まれたほうが悪いのか盗んだほうが悪いのか、どうなんでしょう。安保法制に関する国会質疑も酷いもので「国民は理解していない」と声高に叫ぶものの「私も国民です」とつぶやきたくなります。以上政治問題ではなく、報道についての私見です。▼春の東京六大学硬式野球リーグ戦で慶應義塾に連勝し、久々の優勝です。早慶戦は何がなんでも絶対に勝たねばなりません。▼記事でもご案内しましたが、萩谷博さんが急逝されました。台湾で起業され一流企業に育て上げながら日台の架け橋になられました。台北校友会、台湾校友会ならびに日台稲門会、早稲田にとっても代え難い方でした。合掌(齋藤)

**日台稲門会 改訂会則**  
平成二七年六月二〇日

(名称)

第1条 本会は日台稲門会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦をはかり、早稲田大学の発展に協力し、あわせて台湾との交流を深めることを目的とする。

(会員および会友資格)

第3条 会員は日本に居住する早稲田大学の校友または学生で、多少でも台湾にゆかりのあるものとする。

2. 会友は本会活動に賛同する者で、会員の推挙により幹事会で決定する。

(役員を選出)

第4条 本会は次の役員を置く。

- 会長1名、副会長若干名、幹事長1名、副幹事長1名、事務局局長1名、幹事若干名、会計1名。

2. 会長は幹事会の推薦を経て総会で選出する。

3. 副会長、幹事長、副幹事長、事務局局長、幹事、会計は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

(役員任期)

第5条 役員任期は次のようにする。

- (1) 会長の任期は定期総会終了の時から2年後の定期総会終了の時までとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 会長以外の役員任期も会長の任

期に準じる。

(役員職務)

第6条 役員は次の会務を執行する。

- (1) 本会の諸会合に関すること
- (2) 会員名簿の整理並びに管理に関すること
- (3) その他の本会の目的達成に必要な行事の企画

(会長・副会長・幹事長・副幹事長、事務局長の職務)

第7条 会長・副会長は本会を代表し、本会の運営を統括する。

- 2. 幹事長は会長・副会長を補佐し、会長・副会長に事故ある時はこれに代わる。
- 3. 副幹事長は幹事長を補佐し、当会の円滑なる運営を図る。
- 4. 事務局局長は会の事務を執行する。

(監査役)

第8条 本会は監査役を置く。

- 2. 監査役は会長の委嘱を経て総会で選出する。
- 3. 監査役は会計監査を執行する。
- 4. 監査役の任期は定期総会の時から2年後の定期総会終了の時までとする。
- 5. 任期の満了前に退任した監査役の補欠として選任された監査役の任期は、退任した監査役の任期の満了する時までとする。

(幹事会)

第9条 幹事会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、事務局局長、幹事、会計をも

つて構成し、必要に応じて会長が召集

して本会の運営に必要な事項を協議決定する。

(総会)

第10条 本会は幹事会の決定を経て毎年1回、会長の招集により定期総会を開催する。ただし、会長が必要と認め

(事務局)

第11条 本会の事務局は、事務局長宅に置く。

(経費)

第12条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって支払う。

(入会金および年会費)

第13条 本会の会費は次のとおりとする。

- (1) 入会金は金2,000円とし、年会費は金5,000円とする。
- (2) 年会費を継続して3年間未納の場合、本会を退会したものと見做す。
- (3) 学生会員および卒業後1年未満の会員は年会費を免除する。また学生会友についてもこれに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は4月1日より翌年の3月31日までとする。

(名誉会長、顧問)

第15条 名誉会長、顧問は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

- 2. 名誉会長、顧問は会の行事に積極的に参加し、幹事会に意見を求められた場合は真摯に対応する。
- 3. 顧問の任期は委嘱を受けた時から2年間とする。

(会則の改訂)

第16条 本会則の改訂を必要とする事項については、直近の総会において事後承認を求めなければならない。

(付則)

本会則は、平成9年1月1日より施行する平成12年4月15日一部改定、平成13年4月7日一部改定、平成15年4月12日一部改定、平成20年4月26日一部改定、平成24年6月9日一部改定、平成25年6月1日一部改定、平成27年6月20日第4条第1項、第3項、第6条第2項、第7条第1項、第8条第4項、第9条、第11条改訂、第7条第4項、第15条第2項、第3項新設



WASEDA U 2015

祝・日台稲門会会報第18号発行

|                                       |  |                                       |  |   |
|---------------------------------------|--|---------------------------------------|--|---|
| <p>川村由紀<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p> | <p>川村淳一<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会</p>     | <p>小川英郎<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p> | <p>小野間恒夫<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会</p>    | <p>岩永康久<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 名誉会長</p> |
| <p>高橋徹<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 顧問</p>  | <p>齋藤晃<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 事務局長</p> | <p>北村友雄<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会</p>    | <p>北川原宣夫<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p> | <p>神田正治<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p>   |
| <p>真鍋藤正<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 監事</p> | <p>萩原伸一<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 会長</p>  | <p>中島淳<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会</p>     | <p>寺田修<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p>   | <p>陳惠珍<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p>    |
| <p>早稲田大学台湾研究所</p>                     | <p>渡邊義典<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事</p>  | <p>渡邊光治<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会</p>    | <p>廖朝欽</p>                             | <p>三村達<br/>早稲田大学校友会<br/>日台稲門会 幹事長</p>   |